

生活経営における生涯設計とファミリーリスクマネジメント（第1報）

一生涯のイベントとファミリーリスクに対する認識・準備一

○尾島恭子* 東珠美** 荒深美和子* 山口久子** (*金沢学大 **樹女学大)

【目的】生活環境が著しく変化する中で、家族・個人の自己実現を妨げるリスクに関する研究の必要性とその関心が高まっている。本研究では、ライフフロー上において、家族・個人が有する諸資源の減少がもたらされたり、その増大が妨げられたりする危険性をファミリーリスクとしてとらえ、生涯生活におけるさまざまなイベントに伴うリスクに対する認識と準備の実態を掌握・分析することによって、今後の生活経営の安定・成長に必要なマネジメントシステムのあり方を提言することを目的とした。

【方法】名古屋市を中心とする愛知県内の子供（幼稚園児～大学生）のいる世帯を対象に、ライフフロー上における短期的・中期的・長期的なイベントのそれぞれが、家族・個人のもつ人的・物的・時間的・空間的・金銭的諸資源をどの程度脅かすと認識し、その準備をどのように実施しているかについての調査を行った。調査方法は質問紙法で1996年7月に実施した。有効回収数は779票であった。

【結果】調査の結果から、事故や火災など不確実性の高いイベントに対しては、確実性の高いイベントに対してよりも、リスクとしての認識があることが認められた。しかしその一方でそれらに対する準備はあまりなされていないことも明らかになった。このような各イベントに対するリスクの認識と準備のギャップ、あるいは、経済的な資源のみならず、生活時間や人間関係なども含めた生活諸資源との関わり、さらには高齢社会問題等、今後一層深刻化することが予測される諸社会経済問題などとの関わりなどからも、新たなリスクマネジメントの必要性が認められた。